

CONTENTS

COMBAT

2013.Jun.
No.447

6

Cover Design
favorite graphics(tamao ito),
Cover Photo
fujiwara,
©WORLD PHOTO PRESS 2013



【第1特集／ミリタリー】

004 New Generation Ttler UNKNOWN OPERATORS

●by fujiwara

014 中東で最大の軍事見本市 IDEX 2013 Part.2

●レポート:清谷信一(Shinichi Kiyotani)

044 オスプレイMV-22 体験搭乗

●写真・文/菊池雅之

076 月刊 自衛隊 ニッポンのちからこぶ 『ひらしま』型×S-10

●写真・文/菊池雅之

134 The Equipments of the U.S. Force [現用米軍装備カタログ]第105回 米国特殊部隊のMULTICAM迷彩装備Part.2 USSOCOM's Protective Combat Uniform (PUC) LevelI9

●解説:松原隆(高知ボンバース) ●撮影:山崎 学

【第2特集／TOY GUN】

020 東京マルイ 電動ガンLIGHT PRO SERIES M4CQB

●Photos&Text by Taku

024 CRAFT APPLE WORKS Borchardt Pistole C-93 & Papa Nambu

●Photos&Text by Taku

030 WESTERN ARMS WA AGING CUSTOMの魅力

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

068 Custom Toy Gun Corner 手軽にできるブルーイング講座

●Photos&Text by Taku



036 WESTERN ARMS NEW MODEL REPORT

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY

048 Goods & Accessory

062 バトスプロジェクトPresents魂シリーズ!! 二百三高地魂 カク戦エリ

●レポート:バトスプロジェクト:宮本隆宏

066 New Shop Information S&Graf 東京店 リニューアルオープン

●Report by Taku

080 世界の兵士図鑑 中国人民解放軍

●イラスト:解説:坂本 明

084 サープラスいじり技術研究所

●写真・文:雑本知之

085 Militaria Roundup! ガスマスク&毒ガス防護装備 Part.3

●解説:菊月俊之 ●写真:宮坂政邦(WPP)

096 PRESENT

130 トイガンニュース

130 WA コルトコマンダー(ガルシア/ビンテージ・エディション)

131 WA コルトMkIVシリーズ'70(ブラック・クロム)

132 WA SIG1911(トラディショナル/TACOPS)

133 MARUZEN APS TYPE 96

184 中田商店グッズ

186 S&Grafグッズ

189 Hot Toys [ムービー・マスターピース][エクスペンダブルズ2] 1/6 スケールフィギュア バーニー・ロス

097 GAME OVER THE TOP!

100 物欲ワンホール

ROUND 20:葉隠 マッチ

レア・ミリタリー・テクノロジー

104 ミリタリー雑学講座

108 ミリタリーコレクション

112 幻妖中隊 #mod.20 ●by FUJIWARA

116 アメリカGUN事情 Guns Talk from US

118 ガールズ&バンツァー

120 第68回 ザ・ビクトリーショー

121 第1回フロンティアプレイトマッチ

122 蛙のゆびさき(中山 蛙)

124 トイガンズジャンクション

161 バックナンバーリスト

162 読んで覚える TakuのHOW TO Shooting 射撃のススメ

164 帰ってきた 狩野健一郎の[監督、そこにおっぱいは必要ですか!]

166 A STITCH IN TIME

167 こちら神保町軍装店

168 ビバ! ナイフ

170 狩野健一郎のシネマ放浪記

171 狩野健一郎の新作DVD紹介

172 コンバットマガジン・インフォメーション・センター

175 読者プレゼント応募方法

176 編集後記

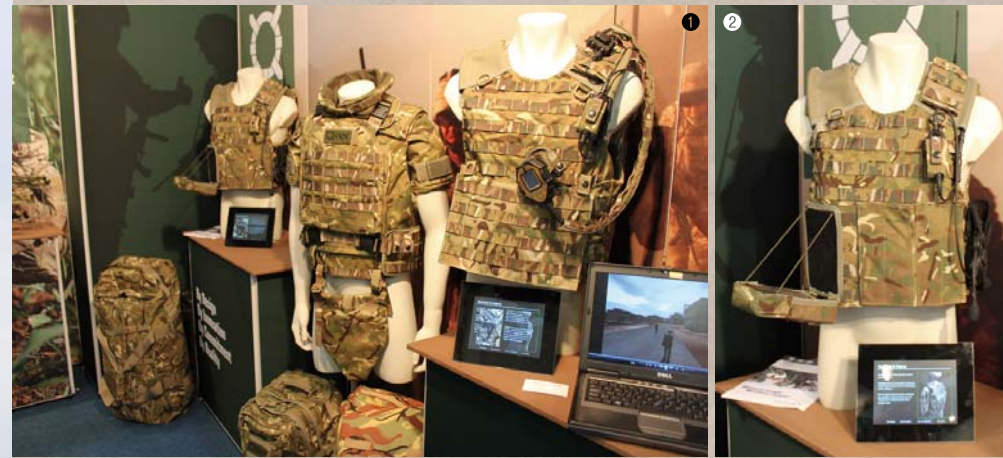


中東で最大の軍事見本市 Part.2

IDEX 2013

●レポート：清谷信一 (Shinichi Kiyotani)

ネクセター社の新型牽引式榴弾砲“ト
ラジャン”。仏軍で使用されている40口
径のTR-F1と簡易型自走砲“カエサル”
で採用された砲システムを元に開発さ
れた輸出用の牽引砲だ。最大射程は42
kmで6発/分のペースで射撃が可能。
また補助動力装置が装備されており、
自力で陣地変換も可能となっている。



①英国CQC社がコスワース社とともに
英国防省の要求に応じて開発した個人装
備 “ MDPD (Man-Worn Power and
Data)”。アフガンで展開している部隊用
の装備システムで、コアになるオスプレ
イ・ボディアーマーにタレス社の先進歩
兵システム “ノーマンシステム” 関連の
デバイスが収納できる。②ノーマンシス
テムの端末を装着したボディアーマー。
英陸軍は将来歩兵システムとしてタレス
社の開発したFISTを採用したが、現在の
アフガンでの戦闘では間に合わないため、
戦時即時要求として同じくタレス社がノ
ルウェー陸軍向けに開発したノーマンシ
ステムを投入している。③弾薬収納ポー
チの類、各種の装備を装着した時に互い
に干渉しないようなデザインがなされて
いる。④ヘルメットカバーやパトロール
バック、ガスマスクケースなども一新さ
れている。



今回はアラブ諸国中心の装備を紹介
したが、今回はそれ以外の注目新製品
を紹介する。

IDEXは中東最大の軍事見本市だが、
中東が兵器の世界的な大市場というこ
ともあり、世界のメーカーがIDEXで最
新型を発表することも多い。このため
現在の世界の兵器のトレンドを感じ取
ることができる見本市となっている。
ただ残念なのは屋内展示スペース拡大
のため、かつて戦車などの機動デモが
行なわれたグラウンドがなくなってしま
い、デモスペースは運河側の極めて
細くて狭いものになってしまったことだ。
このため、従来のような迫力ある機動
デモを見ることはできなくなってしま
った。

今回韓国勢が新型の自走MLRSや
UAVなど、意欲的に新型の製品を展示



米CFDインターナショナル社のUH-60用の12.7mm M3機銃を採用したヘリ用機銃システム “EGMS (External Gun Mount System)”。機銃とマウントを機外に装着するので、機内スペースに余裕がないUH-60には有用だ。仰角は+6.5〜70度と大きく、前後の射角もそれぞれ+90度、+81度とこれまた大きい。弾薬は機内の箱形弾倉から供給される。装弾数は600発で、7.62mm機銃ならば2,700発の収納が可能。また使用されているCDF-M3はオリジナルのAN/M3に改良を加えたもので、発射速度は1,100発/分と速く、重量も75.3ポンド(約34.15kg)と軽量化されている。さらに独自のフラッシュハイダーも装備されている。

していた。全体的に韓国製品は独自性
に欠けており、かといって他の中進国
とくらべて価格が安いわけでもない。
また先進国の製品ほど信頼性が高いわ
けでもない。現在のところ航空機など
を中心に輸出を増やしているが、基礎
研究を増やし、今後独自色を出さない
と市場での生き残りは難しいだろう。
ただその一方で輸出を通じて技術力が
年々向上しているのも事実である。侮
るレベルにはなく、日々我が国との技
術レベルは縮まっていると考えるべき
だろう。

会場が一番警戒されるのは中国人で
ある。近年、中国製品の質的向上が著
しいが、その大きな要因として先進国

メーカーの製品をコピーしてきたこと
を欧米先進国は痛感している。サンプ
ルを輸出したらあつという間にコピー
を作られたという話はよく聞く。この
ため中国に売り込むよりも、中国の技
術情報収集を阻むことに出席者は力を
入れているところが多い。実際筆者が
ラインメタル社を取材中に装甲車内部
を撮影した中国人のビジターがその場
で、写真を消去することを求められて
いた。

我が国はこれまで国是だった武器禁
輸が緩和される方向にあるが、今後防
衛産業の企業や防衛省がこのような見
本市にブースを出す日も遠くないの
かもしれない。



東京マルイ 電動ガンLIGHT PRO SERIES

M4CQB

対象年齢10歳以上の リアルサイズ電動ガン登場!!

Photos & Text by Taku
東京マルイ: <http://www.tokyo-marui.co.jp>

本来、低年齢向けの電動ガンとして開発された電動ガンBOYSシリーズ。しかしインドアゲームなどを楽しむ一般ユーザーに静かな人気商品となっていた。

出会い頭の近距離で撃ちあうことが多いインドアゲームでは、18歳以上用の電動ガンではパワーが強過ぎるため、セミオートオンリーにしたり、使用そのものを禁止するインドアフィールドも少なくなかった。そういったフィールドで活躍するのが10歳以上用の電動ガンBOYSなのだ。

オリジナルよりも小振りのボディにローパワーというコンポーネントは、インドアゲームに最適であり、フィールドによって

はレンタルガンとして採用しているところもあるという。

子供から大人まで人気の電動ガンBOYSだが、ひとつだけ残念なのが、実銃用などオリジナル・サイズのアクセサリーの装着ができないという点である。オリジナルよりもひと回り小振りなBOYSは、レイルマウントのサイズも縮小されているためだ。Boy's専用オプションもまだ少ない。これはマニアにとって由々しき事態である。やっぱり自分の使う銃には個性を持たせたいもの。アクセサリーの装着がもっとも手軽に行なえるカスタマイズなのに、それができないのはとても残念。そんな外装カスタム大好きユー

ザーに、従来の電動ガンやBOYSとは異なる、新しいタイプの電動ガンが登場した。それが今回紹介する東京マルイの「電動ガンLIGHT PRO M4CQB」である。

この「LIGHT PROシリーズ」は、従来のリアルサイズ電動ガンと電動ガンBOYSの美味しいところだけを合体させたようなモデルとして誕生した。もちろん、ただ単純にリアルサイズ電動ガンをパワーダウンしたワケじゃない。使い勝手を考慮した設計の新作モデルだ。

手に取ってみて驚くのがその軽さ。リアルサイズのM4でわずか1,500gしかないのである。それもそのはず、何とこの「LIGHT PRO



電動ガン ライトプロ M4 CQB

- 全長：690mm / 775mm(ストック伸長時)
- 重量：1,500g(電池は含む、BB弾は除く)
- 装弾数：約340発
- 価格：¥1,554
- 新発売中!



外装はほとんどABS樹脂製なので、想像以上に軽い。これならば子供はもちろん、女性ユーザーでも扱いやすい。インドアゲームのみならず、スピードシューティングの分野においても活躍が期待される。

シリーズ」は、一部の内部メカやパーツ、ネジを除いてABS樹脂製となっている。とにかくほとんどのパーツが樹脂なので、ハンドガンに毛が生えた程度の重さが実現したのである。

近頃の電動ガンは金属パーツを多用しているため、実銃並みの質感と重量感が当たり前となっていたが、軽さを求めるユーザーも少なくない。そういった人にとって嬉しいモデルの登場となった。

金属性パーツに慣れてしまったユーザーにとっては、オール樹脂というのは強度的に不安を覚えるかもしれないが、バレルを持って振り回すようなムチャな使い方をしなければ、壊れるようなことはまずない。

リアルサイズになったことで、レイルマウントもオリジナル通り20mmのピカティニー規格を採用。これによって、電動ガン用アクセサリーをはじめ、さまざまな実銃のアイテムを装着可能にできるようになった。ただし、本体がオール・プラスチックであるため、スコープなど18歳以上用電動ガンのように何でも大丈夫というわけではないので注意が必要だ。

基本的な操作方法に関しては、リアルサイズの電動ガンと変わらない。電動ガンBOYSに装備されていたグリップセフティ

は、LIGHT PROシリーズでは省略された。大人の手ならあまり気にならないグリップセフティも、手の小さな人にとってはストレスになってしまう。そんなユーザーの声を反映して、今回のLIGHT PROシリーズではグリップセフティは省略されたのではないだろうか。

ほとんどのパーツが樹脂製だからといって、安っぽさは微塵も感じない。表面にはツヤ消し加工が施されていて、落ち着いた雰囲気にまとめられている。これならば、目の肥えたユーザーも満足だろう。

キャリングハンドルは、リリースレバーをスライドさせて、チャージングハンドルを下げながら後方に引き抜くようにして着脱する。クレーンタイプのストックはオリジナル通り6段階に長さを調節可能。バットプレートを外すと電池収納スペースになっている。駆動には、単3アルカリ電池5本を使用し、約5,000発を撃てること。乾電池だけで簡単に駆動できるのは手軽に楽しみたいユーザーにとって非常に便利だし、入手も簡単。

そしてもうひとつ、LIGHT PROには驚きのメカニズムが搭載されている。それはチャージングハンドルを引けば、電池の有



当然ながらフラッシュハイダーやフロントサイトもABS樹脂製。強度的な観点からスイベルリングは装備されていない。オプションも装着できない。実際のところ軽いため、スリングがなくてもさして不便さは感じない。



上下左右に記した4面レイルマウントは、実銃用の各種アタッチメントを装着可能なピカティニー規格。樹脂製だからといっても、多少の衝撃が加わったくらいでは壊れるようなことはない。

CRAFT APPLE WORKS

Borchardt Pistole C-93 & Papa Nambu

●Photos & Text by Taku
●クラフトアップルワークス
☎0478-52-2456
http://www.caw.co.jp/

現代オートマチックハンドガンのご先祖モデル、ボーチャードピストル&パパ南部登場!!



本郷社長が長い間履めてきた夢のモデルがいよいよカタチになって登場である。残念ながら実銃は写真でしか見たことがないが、クオリティの高さは充分に感じられる。

CAW ボーチャードピストル

- 全長：351.8mm
- 重量：(メーカー未発表)
- 装弾数：8+1発
- 価格：¥44,100



スラリと伸びた細身のバレルはこの時代のドイツ製ハンドガンの定番ともいえる。マズルトップにチョココンと載った小さめのフロントサイトは、シンプルで見やすい。



複雑なパーツの組み合わせによって生み出される魅力は、現代のモデルには存在しない。刻印ひとつからもそれは見て取れる。



ルガーP-08でもそうだったが、当然ながらボーチャードピストルもトリガーがオフセットされている。こうしたデザインだけでも、メカ好きにはたまらない。

今から120年前の1893年、世界で初となる1挺のオートマチック・ハンドガンがドイツ人ヒューゴ・ボーチャードによって開発された。「Borchardt Pistole C-93」、ボーチャードピストルの誕生である。

スラリとした細身の銃身にトグルジョイント、そしてフレーム後部に設けられたメインスプリングハウジングとなるふくらみなど、斬新という個性的なフォルムを持つ。そのデザインの斬新さは、当時はもちろん、現代においても魅力は失なわれることなく、根強いファンがいることでも知られている。

CAWの本郷社長は、創業当時よりこのボーチャードピストルの製品化を目標としていたが、誕生から120年目の今年、満を持しての発売となった。

CAWでは、新規モデルを開発するにあたりアメリカへ赴いて実銃を入手し、現地で細部に渡るまで徹底的に採寸を行ない、日本へ帰国後、テストショットを製作。ふたたびアメリカへ渡り、実銃との比較や組み合わせなどを繰り返して完成度を高めていき、製品

を作り上げていく。何度も繰り返し渡米し、完成度を高めることで、あれらの素晴らしいモデルガンを生み出しているのだ。そんなコダワリの製品作りをモットーにしているCAWが生み出したボーチャードピストルとあって、その完成度は一級、いや特級品といっても過言ではない。こうして作られた製品だからこそ、目の肥えたコダワリ派のマニアも満足の仕上がりとなるのだ。

さて、19世紀末は世界中で銃器開発が盛んに行なわれていた時期でもある。日本でも他国に負けまいとオートマチックハンドガンの開発を行っていた。陸軍士官であり銃器開発者である南部麒次郎は、1902年に日本初のオートマチック・ハンドガンとなる、南部自動大型拳銃の開発に成功。残念ながら構造の複雑さや製造コストが掛かり過ぎるという点から日本陸軍は制式採用を見送った(一部、海軍が採用している)が、将校や一部の官吏向けに販売されたという。

基本的なフォルムは南部十四年式によく似ているが、南部自動大型拳銃の方

が全体的にズングリとしたデザインである。南部十四年式よりも開発時期が古いこともあり、海外ではPapa Nambuというニックネームで呼ばれている。

当時の米軍が十四年式のフォルムから「Japanese Luger」と名づけたため、ルガーP-08のコピーだと誤解されがちだが、メカニズム的にはモーゼルに採用されているブロップアップ式をアレンジしたまったくの別モノ。

「南部自動式拳銃 大型乙」もボーチャードピストルと同じく、実銃から採寸し、忠実に再現したクオリティの高いモデル。もちろん実銃との組み合わせテストも行なっているので、外観のリアルさは折り紙つきである。

今回は、ボーチャードピストルの発売に先んじて2月に発売された「南部式自動拳銃 大型乙(通称:パパ南部)」と2挺まとめてレポートすることとなった。

この2挺のモデルは開発された時期が比較的近い。ボーチャードピストルが1893年、パパ南部は1902年と、どちらも1900年を前後して開発されたオートマチックピストルである。両モデル

WESTERN ARMS WA AGING CUSTOMの魅力

ウエスタン アームズ
☎03-3407-5922
http://www.wa-gunnet.co.jp/

●Photos & Text by SHOTGUN MARCY



COLT COMMANDER (GARCIA/VINTAGE EDITION)



ノスタルジック感のあるグリップ・マークに注目。外装パーツにも入念なウェザリングが施されている

コルト・コマンダー
(ガルシア/ビンテージ・エディション)

- 全長:約198mm
- 銃身長:約95mm
- 重量:約830g
- 装弾数:21+1発
- 予定価格:¥36,750
- 5月WA渋谷店限定発売予定

今回再生産が決まった「ガルシアの首」イメージ・モデル。



焼き付け塗装で仕上げられたWAの「キンバー・マーサック (上)」と、素材色そのままフィニッシュされた「キンバー・ウォリアー (下)」。どちらも通常の新品を踏襲した仕上げだ。



アクション映画の鬼才サム・ペキンパーが、ウォーレン・オーツを主演に製作したアクション映画『ガルシアの首』(1974年)をイメージして製作されたコマンダー。スライドの汚れ具合が、ウォーレン・オーツの少しくたびれたイメージを彷彿とさせる (DVD版『ガルシアの首』は、20世紀フォックス ホーム エンターテインメント ジャパンから好評発売中)。

驚くほどの金属感を表現した樹脂製トイガン

数年前からリリースされているウエスタンアームズ (以下:WA) のウェザロン・カスタム・シリーズ、つまり「ビンテージ・エディション (以下:VE)」「バトルダメージ・バージョン (以下:BD)」が、今大きな反響を呼んでいる。今年に入って新聞広告、Amazonや楽天などのネットショップ、これまで以上に幅広いファンにアピールする態勢を整えたのがその一因ようだ。

以前、WAがガバメントの「ゲッターウェイ・モデル」「ハンター・モデル」を発売し

た時、マルチ・タレントの所ジョージさんが、WAから贈られた2挺のガバメントを手に「樹脂っていったい何なんだ……」と、しみじみ語る様子が人気番組の『所さんの世田谷ベース』で放映された。金属よりも遙かに金属感のある樹脂製のトイガン。それが往年のトイガンファンである所さんの心に響き、自然にそんな言葉が出てきたのだろう。

日本の銃器ファンの間では、VEもBDも



ABSを素材にメッキを施した「シリーズ70/ブラック・クローム」。コルト・ロイヤル・ブルーをイメージさせる新品・スペシャル・フィニッシュのガバメントだ。

Custom Toy Gun Corner

Photos&Text by Taku

撮影協力
●G.Smith.S: ☎075-466-5177
FAX: 075-466-5175
HP アドレス: <http://www.g-smith-s.com/home/>
E-MAIL info@g-smith-s.com
●クラフトアップワークス: ☎0478-52-2456/
HP URL <http://www.caw.co.jp/>
●ホビーショップフロンティア: ☎03-3901-2715(本店)/
HP URL <http://www.frontier1.jp/>



カラーリングに続いて
今度はブルーイングに
チャレンジ!!

手軽にできる ブルーイング講座



ベースガンはCAWの「COLT M1911A1」をチョイス。刻印の入っていないブレンモデルなので、ミリタリーっぽい雰囲気を出してやることにした。

今回のレポートで使用したG.Smith.Sの「シャイニーブルー垂鉛用 お試しセット」。ブルーイング液と脱脂剤、フィニッシュオイル、ナイロン研磨パッド#1500のセット。量は少ないが、ハンドガンなら2〜3挺は仕上げられる。特別価格¥1,800。

トイガン用ではモノ足りないという人には、海外製の実銃用ブルーイング液もある。これらの商品は、ホビーショップフロンティアなどで取り扱っている。



ブルーイングというのは、金属の表面に酸化皮膜を形成しサビなどを防ぐコーティング技術である。

通常、金属というのは酸素や水分に触れることにより腐食する。この腐食を防ぐには、金属の表面をカバーし金属が直接外気に触れないようにすればよい。その皮膜を作る方法のひとつがブルーイングである。

ブルーイングは、金属の表面へ人工的に酸化皮膜を形成し、その皮膜によって腐食を防ぐ。塗装が表面に塗料の薄い膜でコーティングするのに対し、ブルーイングは金属の表面そのものに直接皮膜を形成するため、金属自体の風合いや質感を損なわない。また、使用するブルーイング液の調合によって色合いや風合いが変化するという特徴もある。

古くから銃器の表面処理のひとつとして行われてきた方法であり、ガンマニアの間ではブルーイング＝ガンというイメージが定着している。

トイガンのカスタムとしても定番となっており、ケミカル関係に力を入れているカスタムパーツメーカーなどから、オリジナルのブルーイング液が発売されている。こだわり派のマニアの中には、複数のブルーイング液を使用する部分によって変えたり、調合してオ

リジナルの色を作り出したりする人もいます。こういったケミカル系のカスタムというのは難しいイメージを持たれるが、実際のは、少々手間は掛かるものの比較的簡単に行えるカスタムなのだ。

必要なものとしては、油分を取り除くための脱脂剤、中性洗剤、紙ヤスリ、スポンジヤスリ、ブルーイング液、仕上げ用のオイルといったモノがあれば作業はできる。

京都にあるカラーリング系のカスタムメーカーである「G.Smith.S」でも、オリジナルのブルーイング液の開発に力を入れている。今回のレポートでは、「G.Smith.S」にご協力いただき、新製品の「シャイニーブルー垂鉛用 お試しセット」を使用してブルーイングを行なっていく。

この「シャイニーブルー垂鉛用 お試しセット」にはブルーイング液のほか、脱脂剤、EX.OIL、ナイロン研磨パッド#1500がセットとなっている。ブルーイング処理に必要なアイテムがすべて揃っているのはビギナーにとっては大助かり。

ベースガンにはCAWのモデルガン「COLT M1911A1」を用意した。CAWのM1911A1はHW樹脂を使用しているの、ガン全体にブルーイング加工が施せる。パ

ーツだけ色を変えると、全体のバランスが狂ってしまう場合もあるが、HWモデルなら全体の色を合わせられる。それと、CAWのM1911A1は作業しやすいというメリットもあり、このガンをチョイスした。

そんなワケで、前置きが長くなったが、さっそくブルーイングに取り掛かる。作業自体は、少々手間は掛かるかもしれないが、決して難しいものではないので、興味のある人はぜひチャレンジしてみたい。

手順としては以下の通り。

その1「分解と下準備」

まずはブルーイングしたいパーツを分解して取り出して置く。

今回のレポートでは、HW製のスライドとフレームにもブルーイング処理を施すため、完全分解する必要がある。組んだままでは表面の研磨はもちろん、脱脂処理もできないからだ。

次に、ブルーイング処理を行なうすべてのパーツの表面を紙ヤスリやワイヤーブラシなどを使って研磨しておく。これは、パーツについているブルーイング処理を剥がしておくためである。この際、スライド側面など、平面を出しておくとう仕上がりがよ